

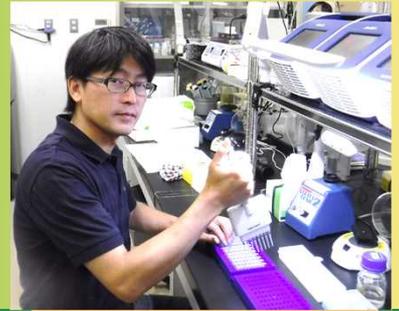
フグ食の安全・安心を究極まで高める
東日本沿岸におけるショウサイフグとマフグの交雑
現象

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2025-01-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 洋 メールアドレス: 所属: 水産研究・教育機構
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2012573

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



フグ食の安全・安心を 究極まで高める 東日本沿岸におけるショウサイフグと ゴマフグの交雑現象



生物生産学科
高橋 洋

研究の目的

フグ(トラフグ属魚類)は種によって有毒部位が異なり、また異なる種間の交雑により生まれた雑種の毒性は不明なため、正確な種・雑種判別は欠かせません。2012年頃から東日本沿岸で数多く漁獲されるようになったショウサイフグに類似する種類不明フグについて、フグ食の安全・安心を高めるためにDNA解析による種・雑種判別を行いました。

研究の成果

DNA解析の結果、これらの種類不明フグはこれまで東日本沿岸ではほとんど漁獲がなかったゴマフグとショウサイフグの雑種であることが判明しました(図1)。また、日本海の温暖化により、本来日本海に分布するゴマフグが津軽海峡を越えてショウサイフグの分布域に侵入した結果、大規模に交雑が生じたと推測されました(図2)。

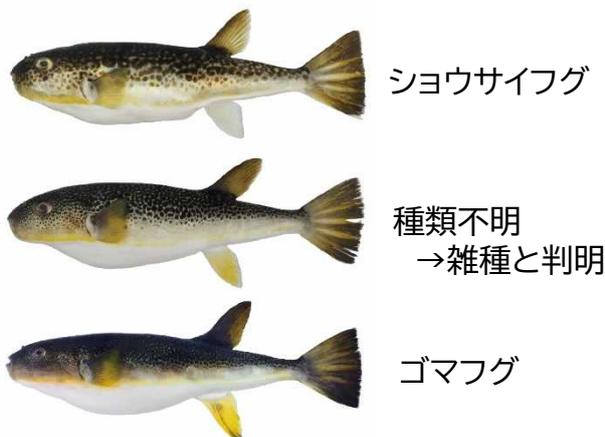


図1 ショウサイフグとゴマフグ、および2種の雑種と判明した種類不明フグ

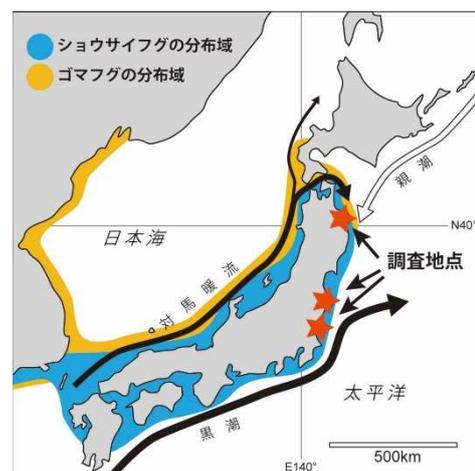


図2 ショウサイフグとゴマフグの分布域と調査地点

波及効果

- ・厚生労働省のフグ処理者認定基準に関する検討会への情報提供(すでに実施)
- ・行政におけるフグ処理ガイドラインの作成